

里海づくり【岡山県備前市】

◇里海【SATOUMI】

人の手を加えることにより、生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域

◇備前市における『里海づくり』

30年以上継続して行っているアマモ場の再生

◇アマモ【(英)eel grass, (和)リュウグウノトヒメトユイノキハズシ】

北半球の温帯から亜寒帯にかけて、水深1mから数mの沿岸砂泥地に自生する海草の一種

◇アマモ場の機能

魚介類の産卵場所や幼稚魚の生息場となったり、光合成により海中に酸素を供給するなど海の環境にとって必要不可欠な役割を果たす。俗に『海のゆりかご』とも呼ばれる

◇アマモ場再生の経緯

地先を漁場とする漁師が漁獲量減少に伴いアマモ場の重要性に気付く
当初は漁師19名と漁協青年部12名で岡山県の指導を受けながら、わずかに残ったアマモの種を採って播くことから開始
底質の改善など、試行錯誤を繰り返しながら活動を継続
平成20年頃より、アマモ場が一気に回復し始める
現在では、研究者はもとより、地元中学生や、全国各地の高校生、大学生、消費者団体など数多くの応援団とともに活動
活動を始めた当初(昭和60年)、12haにまで減少していたアマモ場が、30年以上継続した結果250haにまで回復
備前市日生における里海づくりの活動が書籍や、メディアにおいて『里海のトップランナー』と紹介される
今後の展望として、『里海づくり』をブランド化し地域経済の活性化と持続可能なまちづくりを推進する

アマモ場の機能

魚介類の産卵場所
稚魚の育成場所
(天敵から身を隠す)

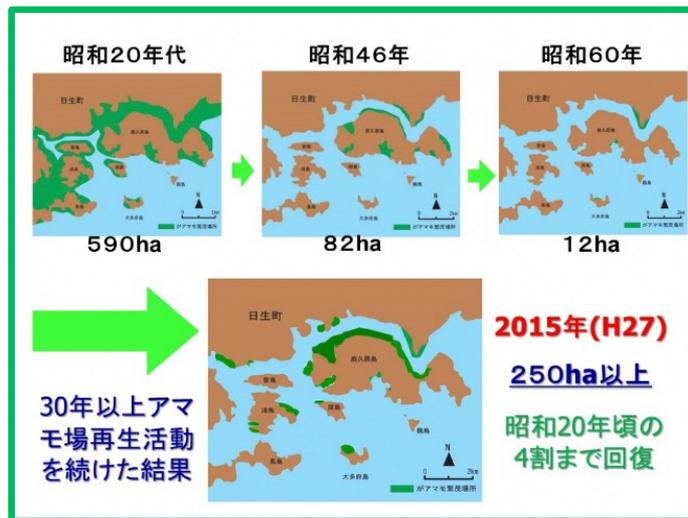
水質の浄化
光合成により、二酸化炭素を吸収し酸素を排出する
地下茎から土中の有機物を取りこむ

アマモ場

小魚の餌場
アマモの葉には甲殻類や、多毛類(ゴカイ類)が豊富に生息しており、海底は多毛類や二枚貝(アサリ等)が生息

栄養分の再配分
海藻類に比べて分解速度が極端に遅く、徐々に分解しミネラル分を還元する。

『海のゆりかご』アマモ場の機能



アマモ場面積の推移



アマモ場再生活動